



若者×地域ボランティア

# 活動の意義と課題

北青少年活動センター

大谷大学文学部社会学科 赤澤 清孝 准教授



ボランティアにはいろいろなタイプがあります。今回の特集は「地域で活動するボランティア」。研究者、ボランティア、ボランティアコーディネーターという三つの立場から、地域でボランティアする面白さ、苦心、工夫等を感じてください！

## ■若者にとって ボランティア活動とは？

若者はなぜボランティア活動をするのでしょうか。参加の動機は、「困っている人を助きたい」という「利他的な動機」と、「新しい体験をしたい」「仲間が欲しい」といった「利己的な動機」の大きく2つに分けられますが、若者の場合、活動を始める段階では、利己的な動機がやや強いようです。若者特有の「自分探し」ニーズの受け皿になっっているとも言えるでしょう。しかし活動を続けるうちに、利他的な動機が強くなっていきます。「自分のため」に活動を始めた学

生たちの多くは、困難な状況の中で生活する人たちや、深刻な環境問題などに出会うなかで、「なぜ、こんな状況なのか」「どうすれば改善できるのか」という問いに出会います。そして、「地域のため」「社会のため」に自分に何ができるのか考え、行動するよう変化していくのです。経験や力量不足で、活動の現場で役に立てず悔しい思いをすることもありますが、そうした経験が、若者たちに、よりよい活動を行うために必要な資質や能力は何かという気づきを与えてくれます。若者たちの「自分探し」はやがて「社

## ■地域活動へ、若者を巻き込むには？

会の中での自分探しへと変わるのです。若者にとってのボランティア活動の意義はこうした学びや成長にあると言えるでしょう。

もちろんすべての学生が上記のような成長に至るわけではありません。成否を分けるのは、若者を受け入れる地域の側の意識や受入体制です。若者の参加が少なかつたり、続かない活動の多くは、受け入れ側が若者を単なる人手・労力としかみなしてなかつたり、参加することが若者にとってどういう意味や成果があるのかを考えていなかったりするようです。

現在の若者は、かつてと比べ、授業への出席が必須だったり、アルバイトやインターンシップ、就職活動に時間を割いたり、やらないといけないことが結構多く、生活に余裕がありません。これは若者を取り巻く課題ですが、であるがゆえに「活動に参加するのは

自分にとって意味のある機会だ」とわかるような見せ方や、活動中や活動後に「お役に立てた」「意味のある時間だった」と感じられるようなフィードバックが不可欠です。

関西地区大学ボランティアセンター連絡協議会が昨年発行した「学生と地域のホンネ」大学のコーディネーション力を生かす」には、地域と学生との間にあるギャップやその改善のためのヒントが数多く紹介されています。ウェブサイトから入手できるのでぜひ参照してみてください。

(URL <http://www.osakavol.org/03/daigaku-vc/>)

# 祇園祭ごみゼロ大作戦に関わってみて

東山いきいき市民活動センター 大野 丈



みなさんは、「祇園祭ごみゼロ大作戦」というプロジェクトをご存知ですか？

「祇園祭ごみゼロ大作戦」

とは、祇園祭の宵山において屋台等で利用される使い捨て食器を何度も洗って繰り返し使用できるリユース食器に置き換えて、お祭りのごみ減量を目指す日本最大級の環境保全活動のことです。2014年からスタートし、毎年、約2,000人のボランティアスタッフがリユース食器の回収、ごみの分別ナビゲーションや、拾い歩き等の活動に参加し、ごみ減量に大きな効果を上げています。

## 参加の動機

私自身、スタートの2014年から3年連続でボランティアスタッフとして関わっています。参加しようと思った理由は2点あります。1点目は、「生まれ育った京都に何か恩返しをしたい」という想いを形にするためです。2014年から「まちづくり活動」に関わることになり、京都という

街がいかに魅力溢れる街かということを改めて実感し、自身も何か京都に貢献していきたいと考えていたときに「祇園祭ごみゼロ大作戦」のことを知って、とてもおもしろそうだと感じ、参加しました。2点目は、「尊敬できる人」と出会ったためです。私自身、人生において人との出会いを大切にしております、ボランティア活動に参加する方は、他者や社会に貢献すること喜びを感じる人で、自分に足りないものを気付かせてくれる出会いに恵まれること間違いのないという想いで参加しました。実際に参加してみて、微力な自分が京都に貢献できたかはわかりませんが、道行く方々や露店商の方々からくさんの「ありがとう」や「ご苦労様」といった労いの言葉を頂くことができて、大きなやりがいを感じました。日常生活において、直接には接点のない地域の方々から

労いの言葉を頂戴するという機会はずないので、非常に嬉しかったです。人間というのは誰かの役に立つことにこそ、大きな喜びを得ることができるといふことを実際に肌で感じる事ができて、本当に良かったです。人生をより豊かなものにしていく気づきを得ることができました。

そして、たくさんの方々の「尊敬できる人」との出会いにも恵まれました。ごみの不法廃棄に悩まされている地域のクリーン活動に積極的に取り組んでいる方々や、「日本の森を守るために取り組んでいる方々」、教師になって日本の教育を変えたいと高い志を抱いている学生など、心の底から尊敬できる人に数多く出会うことができました。活動を通じて仲良くなったメンバーとは、フットサルをしたり、環境について考えるイベントをしたり、と活動終了後にも継続的に接点をもつことができて、人生において大きな財産になっています。私にとって、「祇園祭ごみ

ゼロ大作戦」は、単なる環境保全活動ではなく、より自分を豊かにするための「学校」のような存在です。

## 活動で感じる困難

一方、課題だと感じたのは、活動に対して「積極的」ではないボランティアスタッフの方とのコミュニケーションです。基本的には、活動に共感し、意欲的に取り組んでいる方々ばかりが参加されているのですが、なかには仕事の一環として、または学校の課外活動の一環として、義務的に参加されている方が一部いらっしゃる。その方々と同じベクトルで活動するのが非常に難しいと感じました。実際にお願

いしたタスクを遂行していただけなかつたり、シフトを守っていただけなかつたりというところもあり、そのよ

うな場合の対処法にとっても困りました。ただし、約2,000人も力を必要とする「祇園祭ごみゼロ大作戦」を実行するにあたって、「積極的」でない方々の力も欠かすことができないと思うので、今年度参加する際には、そのような方々に「どのようなお声掛けをすれば楽しんで活動していただけるのか」「活動することによってどのような価値を持ち帰っていたか」ことが出来るのか意識しながら取り組み、より大きな成果に繋がるよう貢献したいと考えております。



いしたタスクを遂行していただけなかつたり、シフトを守っていただけなかつたりというところもあり、そのよ



# 左京×学生縁ねつとの活動から

特定非営利活動法人ユースビジョン 芝原 浩美



地域活性化プロジェクト「左京×学生 縁ねつと」(以下、「縁ねつと」)とは、2012年度から開始した、学生ボランティアを求める地域団体と地域で活動したい学生をマッチングするシステムで、左京区役所、左京区社会福祉協議会、当団体の3者協働で実施しています。

「縁ねつと」で紹介するボランティア活動は左京区内の地域団体等から情報が寄せられ、「縁ねつと」事務局から学生に情報発信を行い、学生が個別に申し込んで活動に参加するという仕組みです。なお、「縁ねつと」で取り扱う活動は、原則として、自治会や町内会、伝統文化保存会等の地域団体が行う活動に限定しています。今年度は、事務局がコーディネートに入る等重点的に関わる「イチオシ」活動プログラムを新たに設けました。

これまでの5年間で約90件の活動、450人以上の学生が地域のボランティア活動に参加してきました。ここでは2つの活動を紹介します。

## ■ 葵ふれあいひろば

京都府立大学や京都ノートルダム女子大学がある「葵学区」の社会福祉協議会では、年に一度、学区内の葵小学校体育館にて、地域のお祭り「葵ふれあいひろば」を開催しています。太鼓、コーラス、太極拳等の住民の方々の発表会や、子どもコーナー(フラバンづくり、腕相撲等)、障害のある方の作業所の販売コーナー等、葵学区で活動するさまざまな団体や住民が集結するイベントです。

2015年は、「ふれあいひろば」の実行委員会に2人の学生が企画メンバーとして参加し、当日にはさらに数名の学生がイベント当日の運営をサポートしました。後日には、地域住民のみなさんの打ち上げ会にもお招きいただき、さらに交流を深めました。

実行委員会から参加した学生は「企画から参加できることが魅力だった」、当日参加の学生からは「多くの方が年に一度のこのイベントを楽しみしていることがわかった」「テントを建てたり、机やイス

を運んだりするのは、体力がある学生が担当できてよかった」等の声を聞くことができました。

## ■ 左京区北部雪かき

左京区の北部地域(広河原、別所、花脊)は、冬には雪が多く降り積もる地域です。一人暮らしの高齢者宅ではなかなか雪かきができず家の1階部分が雪で埋まることもあり、2006年度から左京区社会福祉協議会が実施していた雪かき活動に、2014年度以降「縁ねつと」でボランティア募集をしています(社会人も参加可能)。

今年度は3地域で合計37人の学生(留学生含む)が参加し、3日間(各地域1日)で12軒の家の周辺の雪かきを行いました。参加した学生からは「高齢者がこの作業を毎日していることを想像すると、やはり大変だ」「こんな地域が左京区にあることを初めて知った。また来年も来て手伝いたい」等の声がありました。



これまで、地域と学生をつなぐ一つの方法として取り組んできましたがその中で、「地域と一緒に何かしたい」「地域とつながりたい」「あるいは「やってみたいものの上手くいかない」といった声を聞くことがありました。

そこで「縁ねつと」の取り組みや当団体に関わってきた他の取り組みをふりかえりつつ、地域とつながる活動とするための課題や工夫、ポイントについてまとめてみたいと思います。

### (1) 地域側の事情・ペースを尊重する

何か新しく行う場合、受け入れる地域の側にとっては相当の覚悟と準備が必要となります。時期やスケジュール等、無理をさせないよう、地域側の事情をまず尊重し、少しでも地域側が不安に感じるようなら、時期を延期したり、活動内容を見直す等の判断を柔軟に行うことが大事です。

よく見られるのは「地域とつながって〇〇したい」という側の思いが強すぎるケースです。

### (2) 地域のキーパーソンとの信頼関係を構築する

地域側の窓口となっていただけの方の存在は重要です。地域の行事に顔を出す等、キーパーソンと

の関係づくりを前々から丁寧に進めるとその後も比較的スムーズなことが多いようです。

ただ、ここで気をつけたいのは、キーパーソンの思いが地域住民のみなさんの総意とは限らないということです。何をしても最終決定するのは、地域の方々です。短時間で結論が出ないこともあるかもしれませんが、じっくりと待つことが大切です。

### (3) 学生への期待(過大または過小)を調整する

地域住民のみなさんはそれぞれ「学生」というイメージを多種多様に持ちます。例えば、「学生は時間に余裕がある」「パソコン

作業が誰でも得意」という期待や、「挨拶も十分にできない、手間ひまがかかる存在」とややマイナスなイメージ等です。

できるだけ、現在の学生の姿をお伝えする、最初は少人数で参加して実際に学生とふれあう機会等の工夫が考えられます。

「縁ねつと」では、地域と学生のよりよい出会い、よりよいつながりが生まれるよう、これからも地域の方に教えていただきながら、様々な取り組みを展開していきたいと考えています。

## ボランティア募集中!

学生のみなさん、「左京×学生 縁ねつと」では、左京区の各地域で行われるボランティアに参加しませんか? 詳しくは「左京×学生 縁ねつと」で検索してください! QRコードで募集中のボランティア情報をチェックできます!



## ボランティア特集号発行しました!

京都市内の若者が活動できるボランティア活動を集めたリーフレットです。

この春から活動を始めたい方、ぜひお手にとってください。

各青少年活動センターでの配架のほかに、市内の学校、図書館等にもお送りしています。

